



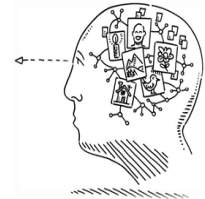
絵に描いたモチ

永田円了

Pie in the Sky

今回のテーマ「絵に描いたモチ」を理解するうえで、次の問いから始めたい。人はなぜ異性に一目ぼれするのだろうか。相手がきれいな女性、ハンサムな男性、だからか。それだけではないだろう。John Lennon がどうして Yoko Ono に惚れたのか。理性では説明しがたい何かがある。スイスの心理学者、ユングは、これをアニマ、アニムスというコトバで説明した。

男性がある女性に一目惚れするのは、男性の中の女性性（アニマ）をその女性に投影したものである。また女性がある男性に惹かれるのは、女性の中の男性性（アニムス）を目の前の男性に投影して、その像を愛している、というのである。頭で描いた理想的な姿（絵に描いたモチ）は、その人の人生を左右する。特に青春時代の理想は純粋である。純粋無垢な傷付きやすい心が、現実社会の欺瞞と不条理にふれたとき、人は現実への強い衝動に駆られる。



金閣炎上

今から 75 年前（1950 年）、京都の金閣寺が放火によって焼け落ちた。犯人は驚くことに、その寺で修行中の青年僧だった。彼の名は林養賢（21 歳）、舞鶴市の小さな寺の息子であった。当時の報道では、「金閣という美」に対する執着、理想と現実との乖離に苦悩した青年僧が、最終的に壮絶な行動へ至った、とされている。そしてこの事件は 6 年後、三島由紀夫の小説『金閣寺』で描かれ、世界的評価を得た。



『金閣寺』と『ライ麦畑でつかまえて』との共通点

社会や大人の偽善に反発する青年の心情を描いた小説『ライ麦畑でつかまえて』は、若者のバイブルとも呼ばれ、世界中の読者に共感を与えてきた青春小説の傑作である。

時を同じくして、日本では三島の『金閣寺』が発行されていることは、興味深い。この二つの小説に登場する青年、林養賢とホールデン、共に現実社会への嫌悪と純粋さへの固執で悩む。理想（絵に描いたモチ）と現実とのギャップ、青春の葛藤、「金閣」「ライ麦畑」は、この純粋さの象徴として描かれている。

適応か対応か

理想が現実とぶつかったとき、人はどう動くのか。不条理な現実世界の中で、忸度しながら生きてゆくのか（只々適応）。はたまた、その我慢ならない現実を消し去る行動をとるのか（金閣寺を焼いた青年僧）。または、適応できなくて悶々と悩み、放浪と逃避行に走るのか（ライ麦畑でつかまえて）。

形や伝統にばかりこだわって、新しい発想を拒む書道界に一石を投じた相田みつを（現実に対応）。究極は、この欲望渦巻く現実世界のなかで、“泥中の蓮”のごとく、“適応”と“対応”を混ぜ合わせたような“愉快な花”を咲かせた井上ひさし --- 「難しいことを、やさしく、やさしいことを深く、深いことを愉快地に、愉快なことをまじめに」

さて、あなたはどのような行動をとりますか。

<事 例>

三島由紀夫『金閣寺』1956 年発行
NHK アナザーストーリーズ「金閣炎上 若き僧はなぜ火をつけたのか
河合隼雄「アニマ・アニムス」
J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』1951 年発行
NHK アナザーストーリーズ「人間だもの」相田みつを、唯一無二の力
劇作家・小説家、井上ひさし／笑いは後天的なもの
井上ひさし作、蜷川幸雄演出『道元の冒険』
内橋克人「適応から対応へ」NHK「人間講座」より
尾崎豊 作詞作曲『僕が僕であるために』歌・Miwa

円了のホームページ: www.enryo.jp



作家 井上ひさし